

こだわりのシートで 安全・快適なドライビングを

BRIDE

時速300kmを超えるスピードで疾走するレーシングカー。
そのシートには、身体を守る安全性と
高速を支える機能が要求される。
そのシートを国内で唯一生産するのが、
愛知県東海市にあるブリッド株式会社。
その製品の魅力とものづくりへの思いについて訊いた。

シェルにウレタンを貼り、カバーを被せて、
仕上げていく。



1. 完成したシェル。樹脂が固まったあと、バリ（ささくれ）を取り、穴を空けるなどの加工を施し、塗装する。
2. カバーの縫製作業。3次元の曲線が求められるため、カーブの縫製には通常以上の緊張感がある。
3. リーグのジュビロ磐田のスタジアムに納入された選手用のベンチシート。座りやすいと好評。
4. パケットシートを擬人化した「ホールディングモンスター」。協力工場や出荷用段ボールなどに印刷されている。



ブリッド株式会社
代表取締役社長
高瀬 敏生さん

車検に合格する高品質で 安全なスポーツシート

ブリッド株式会社は、モーターレースなどで使用されるシートをつくる、日本唯一のスポーツシートメーカー。こだわりを持ってつくられるそのシートは、プロだけでなく一般のドライバーにも愛用されている。

代表取締役社長の高瀬敏生さんは、一代でこの会社を育て上げた。

「クルマのシートをスポーツシートに替える方はよほどのクルマ好きで、非常にニッチなマーケットです。それをずっと続けて来られたのは、私自身、クルマが大好きだからです」

高瀬さんは高校卒業後、自動車に関わる仕事をしたいと自動車整備工場などで働き、1981年にブリッドを創業、自動車部品の卸をしながらスポーツシートの開発製造を始め

た。当時、日本国内にはスポーツシートを製造するメーカーはなく、欧州製のものが高価で100%を占めていた。高瀬さんは毎週のように入りきり場に通り、ドライバー一人ひとりの要望を聞き、製品を改良、日本人ドライバーに適したシートの開発に成功した。

スポーツシートは、スピードを出すために重量を軽くすると同時に、コーナーでの横方向の重力に耐えられる剛性、そして万が一の事故に備えドライバーの命を守る堅牢性が求められる。加えて、運転時の快適性や長時間運転での身体への負担軽減など、ドライバーの様々な要望に応えなければならぬ。

改良を重ねたブリッドのシートは、日本人の体型にフィットし、レースでも勝ると高い評価を得て、次第に国内で認知されるようになり、シェアを伸ばしてきた。

そのポイントを高瀬社長は「汎用品に手を広げず、とことんこだわって1つの製品をつくり続けてきたことだ」と語る。プロ向けもアマチュア向けも区別せず、同じ製品を出荷していることは同社の矜持でもある。結果として、ブリッドの製品は品質が高く、追加申請なしで車検に合格することができるため、アマチュアも安心して使うことができるのだ。

手づくりで高品質＆ 多品種少量生産を実現

最初に同社の中心的な製品であるフルパケットシート（※1）のシェル（骨格部分）を製作している協力工場を見せていただいた。

愛知県新城市にあるFRPカスタムでは、ガラス繊維やカーボン繊維を用いたFRP（繊維強化プラスチック）のシェルを手作業で製作している。型の上にガラス繊維などを張り、樹脂（硬化剤）を塗っていく。樹脂の使用量は、季節や気候に応じて調整しているそう、1つひとつの製品は、まさに工芸品をつくるような繊細さでつくり出されていた。

型は現在24種類の形状があり、4人の女性で月に約400〜500脚を生産している。

次に見せていただいた協力工場は愛知県大府市にある縫製のテイシン。ここではシェルの上に被せるシートカバーをつくっている。縫製技術に目を奪われるが、実はポイントとなるのは布の断裁。カバーをシェルに被せた時に美しい3次元の曲線になるようにあらかじめ目印となる切り込みが入っている。ブリッド取締役の笹尾真弘さんは「作業者が次の手順を考えることなく行動できる仕組みをつくるのが、ミスを防止することにつながる」と語る。

さらに、シートと自動車本体を接続するレールの工場シートテックでは、1日約100台のレールを受注生産しており、注文から中2日でお届けできる体制が取られている。800を超える車種に最適なレールを、朝9時の作業から15時までの約5時間ですべて手作業で生産している。

「800種以上に対応するという多品種少量の生産にロボットは適しません。寸法や番号を記入したオリジナルの治具（※2）を使い、流れ作業で生産していきます」（笹尾さん）

在庫をほとんど持たずに、多品種少量、短納期を実現。製品の品質の高さだけではなく、

こうした生産のノウハウが、ニッチな市場への対応を可能にしているのだ。

安全性と快適性を 世の中に広めていきたい

ブリッドの本社工場では、協力工場で生産した部材を注文に合わせて組み上げる作業が行われている。シェルにウレタンを貼り、カバーを掛け、アイロンでシワを伸ばす。細部にも注意しながら細心の注意を払い丁寧に仕上げていく。製品は段ボール箱に入れるが、箱はカートに乗せられる。お客様にお届けする大切な製品を床に直置きにすることはしない。

高瀬社長は言う。

「スポーツシートは、競技用というイメージが強いですが、腰への負担が少なく、長時間の運転でも疲れにくい。こうしたメリットも広く知ってもらいたいと思っています」

今後は、このシートの快適性をさらに高め、長時間運転が一般的な長距離トラックなどにも展開していきたいという。

クルマ好きのクルマ好きによる、クルマ好きのための快適なスポーツシート。その思いは、スポーツの世界だけでなく、クルマが関わる様々な世界に広がっていくに違いない。

ブリッド株式会社

1981年創業のモーターレース用スポーツシートメーカー。年間約1000脚を生産。シートはパケットシートのほかリクライニングなど約60アイテム、国内で販売される800を超える車種に対応している。

<http://bride-jp.com/>



シェルの製作では、強度を確保するため樹脂の肉厚を均一に塗る技術が必要となる。



ドライバーの身体にフィットするフルパケットシート。